患者向医薬品ガイド

2023年4月更新

アクテムラ皮下注162mgシリンジ
アクテムラ皮下注162mgオートインジェクター

【この薬は？】

販売名	アクテムラ皮下注162mg シリンジ ACTEMRA Syringe for Subcutaneous Injection 162mg	アクテムラ皮下注162mg オートインジェクター ACTEMRA Auto-Injector for Subcutaneous Injection 162mg
一般名	トシリズマブ（遺伝子組換え） Tocilizumab (Genetical Recombination)	
含有量	1シリンジ中	1オートインジェクター中
	162mg	

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、抗ＩＬ―６レセプター抗体の注射薬です。

・この薬は、関節液中や血液中に過剰に存在しているＩＬ―６という物質の代わりに受容体（受け皿）にくっつくことで、ＩＬ―６の働きを抑え、症状を改善します。

・次の病気の人に処方されます。

○既存治療で効果不十分な下記疾患

関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）

高安動脈炎、巨細胞性動脈炎

・関節リウマチの場合は、今までに少なくとも１剤の抗リウマチ薬で適切な治療を行っても、十分な効果が得られない場合に使用されます。
・高安動脈炎及び巨細胞性動脈炎の場合は、原則として、副腎皮質ステロイド薬で適切な治療を行っても十分な効果が得られなかったと判断された場合、副腎皮質ステロイド薬による治療の継続が難しいと判断された場合に使用されます。
・この薬は、医療機関において、適切な自己注射教育を受けた患者または家族の方は、在宅で自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○治療開始にあたっては、以下の点などについて十分理解できるまで説明を受けてください。
・この薬を使用することにより、敗血症、肺炎などの重篤な感染症があらわれ、致命的な経過をたどることがあります。この薬は、感染症にかかったときの反応である発熱やＣＲＰ（炎症や感染の指標）増加を抑えます。感染症を早期に発見するため、血液検査や胸部Ｘ線、ＣＴなどの検査が行われることがあります。**【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】**と**副作用は？**に書かれていることに特に注意してください。
・この薬は病気を完治させるものではありません。

○次の人は、この薬を使用することはできません。
・重篤な感染症にかかっている人
・活動性結核にかかっている人
・過去にアクテムラに含まれる成分で過敏症のあった人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
・感染症（重篤な感染症を除く）にかかっている人または感染症にかかっていると疑われる人
・Ｂ型肝炎ウイルスキャリアの人または過去にＢ型肝炎ウイルスに感染したことがある人
・過去に結核にかかったことがある人または結核の感染が疑われる人
・感染症にかかりやすい状態にある人
・過去に間質性肺炎（かんしつせいはいえん）にかかったことがある人
・腸管憩室（腸に袋状のくぼみができた状態）のある人
・白血球減少、好中球減少、血小板減少のある人
・心臓に障害のある人
・肝臓に障害のある人
・妊婦または妊娠している可能性のある人
・授乳中の人

○この薬の使用前に、Ｂ型肝炎ウイルス感染診断のために、血液検査が行われます。

○この薬の使用前に、結核感染診断のために、問診、胸部Ｘ線検査、ツベルクリン反応検査が行われます。また、必要に応じて、胸部ＣＴ検査、血液検査などが行われることがあります。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

●使用量および回数

〔関節リウマチの場合〕

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

販売名	アクテムラ皮下注１６２ｍｇ シリンジ・オートインジェクター
一回量	１本
使用回数	２週間に１回*

*効果不十分な場合には、医師の判断により１週間に１回まで使用間隔を短縮する場合があります。

・この薬は、通常、使い始めてから１２週以内に効果が得られますが、１２週使用しても効果が得られない場合は、現在の治療方法の継続の適否について検討されます。

〔高安動脈炎、巨細胞性動脈炎の場合〕

通常、使用量および回数は、次のとおりです。

販売名	アクテムラ皮下注１６２ｍｇ シリンジ・オートインジェクター
一回量	１本
使用回数	１週間に１回

●どのように使用するか？

・皮下注射してください。

・自己注射を開始する前には、必ず医師、薬剤師または看護師から自己注射のしかたに関して説明を受けてください。アクテムラ皮下注１６２ｍｇオートインジェクターの使用にあたっては、添付の使用説明書を読んでください。また、巻末の「自己注射の方法」、自己注射のための小冊子「アクテムラ皮下注自己注射ガイドブック」も参照してください。

・使用前に室温に戻してください。

・使用直前までこの薬の注射針のキャップを外さず、キャップを外したら直ぐに使用してください。

・注射は、腹部、大腿部または上腕部に行ってください。同じ箇所へ繰り返し注射することは避け、新たな注射部位は前回の注射部位から少なくとも３ｃｍ離してください。

・皮膚が敏感な部分、皮膚に異常のある部分（傷、発疹、発赤、硬結（周りより硬くなっている部分）など）には注射しないでください。

・１回に全量を使用し、再使用しないでください。

・注射器を分解しないでください。

●使用し忘れた場合の対応

決して２回分を一度に使用しないでください。予定日に注射できなかった場合は、医師または薬剤師に連絡し、指示を受けてください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師に連絡してください。

〔医療機関で使用される場合〕

使用量、使用回数は、自己注射する場合と同様です。
医師の指示により、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・この薬を使用中にアナフィラキシーショック、アナフィラキシー（全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい、冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる）などがあらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合は、ただちに使用を中止し受診してください。

・注射時に、発熱、悪寒、吐き気、嘔吐（おうと）、頭痛、発疹などがあらわれる可能性があるため、異常が感じられた場合は、速やかに医師に相談してください。また、注射部位には、紅斑、痒み、血腫、腫れ、出血、痛みなどがあらわれることがありますので注意してください。

・Ｂ型肝炎ウイルスキャリアといわれている人または過去にＢ型肝炎ウイルスに感染したことがある人は、定期的に血液検査が行われます。Ｂ型肝炎ウイルスの再活性化が起こっていると思える症状（発熱、倦怠感（けんたいかん）、皮膚や白眼が黄色くなる、食欲不振など）があらわれた場合には、速やかに医師に連絡してください。

・感染症にかかっていないか調べるために定期的に血液検査が行われ、感染症が疑われる場合には胸部Ｘ線、ＣＴなどの検査が行われます。感染症が疑われる症状（息切れ、咳、のどの痛み、皮膚の異常、排尿時の痛みなど）があらわれた場合には、速やかに医師に相談してください。

・過去に結核にかかったことがある人や、使用前の検査で結核感染が疑われた人は、結核が疑われるような症状（持続する咳、発熱など）があらわれた場合には、速やかに主治医に連絡してください。

・この薬を使用している間は生ワクチン［麻疹（はしか）、風疹（ふうしん）、おたふく風邪、水痘（みずぼうそう）、ＢＣＧなど］の接種はできません。接種の必要がある場合は主治医に相談してください。

・血液中の脂質検査値異常があらわれることがあるので、この薬を使用開始して３カ月後を目安に、その後は必要に応じて血液検査が行われます。

・心臓の病気がある人は、定期的に心電図検査が行われます。心臓の病気がない人でも、必要に応じて、心電図検査、血液検査、胸部エコーなどが行われることがあります。

・この薬を自己注射するにあたって、患者さんや家族の方は危険性や対処法について十分に理解できるまで説明を受けてください。また、患者さん自身で注射した時に副作用と思われる症状があらわれた場合や注射を続けられないと感じた場合は使用を中止し、医師または薬剤師に相談してください。

・一度使用した注射器は再度使用してはいけません。使用済みの注射器の廃棄方法などについて十分理解できるまで説明を受けてください。

・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。

・授乳している人は医師に相談してください。

・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
アナフィラキシーショック	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、めまい、冷汗が出る、動悸、顔面蒼白、手足が冷たくなる
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
感染症 かんせんしょう	寒気、体がだるい、発熱、咳、小水疱が帯状に生じる発疹、皮膚の痛みと熱を伴った赤いはれ、関節の痛み
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	発熱、咳、息苦しい、息切れ
腸管穿孔 ちょうかんせんこう	吐き気、嘔吐、激しい腹痛、寒気、発熱、ふらつき、息切れ、意識の低下
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
白血球減少 はっけっきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
好中球減少 こうちゅうきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
心不全 しんふぜん	疲れやすい、むくみ、息苦しい、息切れ、体重の増加
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	体がだるい、疲れやすい、ふらつき、冷汗が出る、寒気、発熱、突然の高熱、むくみ、出血が止まりにくい、体重の増加、力が入らない
頭部	めまい、意識の低下
顔面	顔面蒼白、鼻血
口や喉	嘔吐、咳、吐き気、喉のかゆみ、喉の痛み、歯ぐきの出血

部位	自覚症状
胸部	息苦しい、息切れ、動悸
腹部	激しい腹痛、食欲不振
手・足	手足が冷たくなる、関節の痛み
皮膚	じんま疹、あおあざができる、小水疱が帯状に生じる発疹、皮膚の痛みと熱を伴った赤いはれ、全身のかゆみ

【この薬の形は？】

販売名	アクテムラ皮下注１６２ｍｇシリンジ
性状	無色～黄色の液
形状	

販売名	アクテムラ皮下注１６２ｍｇオートインジェクター
性状	無色～黄色の液
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	トシリズマブ（遺伝子組換え）
添加剤	ポリソルベート８０、Ｌ―アルギニン塩酸塩、Ｌ―メチオニン、Ｌ―ヒスチジン、Ｌ―ヒスチジン塩酸塩水和物

【その他】

●この薬の保管方法は？

・注射器が入った外箱に入れたまま、凍結を避けて冷蔵庫（２～８℃）で保管してください。やむを得ず室温（３０℃以下）で保管する場合は、１４日以内に使用してください。１４日以内に使用しない場合は、再度冷蔵保管（２～８℃）することも可能ですが、室温での保管が累積※１４日を超えないようにしてください。

※室温保管した合計日数

・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。

・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

・使用済みの注射器等は、廃棄用容器に入れ医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

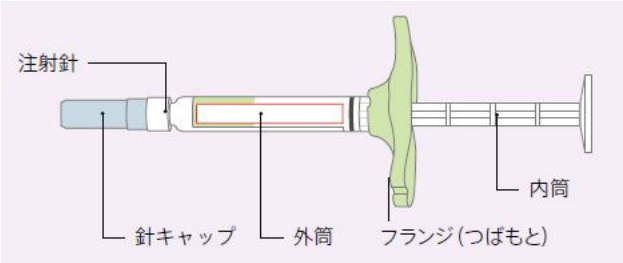
・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：中外製薬株式会社
(https://www.chugai-pharm.co.jp/)
メディカルインフォメーション部
電話：０１２０－０４９－６９９
受付時間：９時～１７時３０分
（土、日、祝日、会社休日を除く）

自己注射の方法

アクテムラ皮下注１６２ｍｇシリンジ

〔注射器各部〕



〔注射の準備〕

１．明るい場所で安定したテーブルを使い、テーブルの表面を清潔にします。

２．シリンジの入った箱を冷蔵庫から取り出し、箱からシリンジを出して、３０分かけて室温に戻します。
室温に戻している間は、シリンジが入っている袋を開けないでください。

３．両手を石鹸で十分に洗い、清潔なタオルで拭きます。

４．シリンジを室温に戻したら、袋からシリンジ本体を取り出します。
テーブルに準備マットを敷き、イラストの上に自己注射に使用する器具一式を並べます。
シリンジ、アルコール綿、そして廃棄ボックスが揃っているかを確認します。

〔注射前のシリンジと薬液の確認〕

注射の前にシリンジと薬液について異常がないかを確認します。

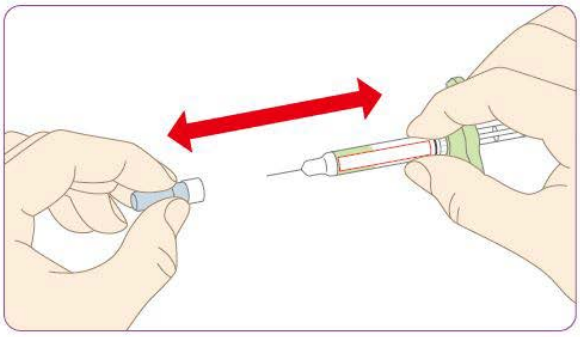
・シリンジが破損していないか
・シリンジのラベルに記載されている使用期限が切れていないか
・薬液の中に塊があったり、薬液が濁っていたり変色していないか

これらに気づいたら、使用せずに医療機関に連絡してください。

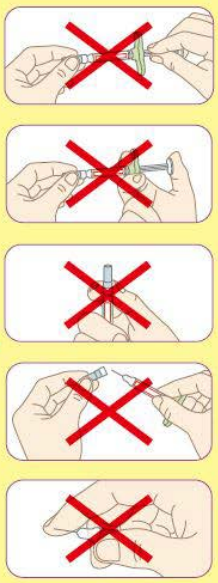
〔注射する部位の確認と消毒〕

注射は、「腹部」「大腿部（太もも）」「上腕部（二の腕）」のいずれかにすることが可能です。
どこに注射するかは主治医または看護師の指示に従います。
注射する部位とその周辺を、アルコール綿で十分に消毒します。消毒したところは、注射するまで手を触れないでください。

〔基本的な注射のしかた（シリンジ)〕



1 シリンジのキャップをはずします。
シリンジ本体を横にして持ち、本体を動かさずに針キャップのみをまっすぐ引っ張るようにしてはずします。針キャップをはずす際は、注射針を曲げないように注意してください。



●内筒を引っ張らないでください。

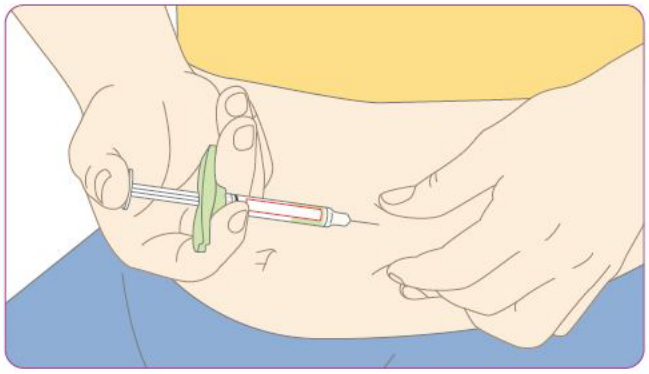
●内筒を押さないでください。

●針キャップを片手ではずそうとしないでください。

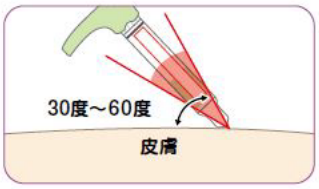
●針キャップを斜めにはずさないでください。

●針先に指など他のものが触れて、誤って指を刺したり、注射針を曲げないようにしてください。

●針キャップをはずしたら、すぐに注射してください。
薬液が針先で固まるおそれがあります。

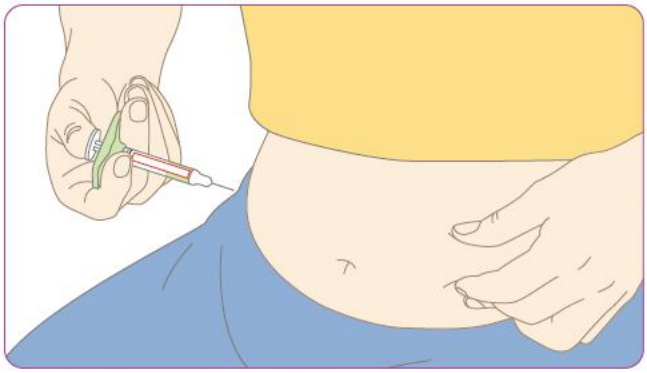


● 注射の角度



2 消毒した注射部位の皮膚をしっかり持ち上げて、皮膚に対して注射針を斜め30度から60度の角度で刺します。
このとき、針が全部見えなくなり、根元まで入っていることを確認してください。
そのままシリンジをしっかり持ち、同じ角度を保ちながら、内筒を最後までゆっくりと押し切ります。

●内筒が硬くて押せないなど、抵抗を感じる場合は、無理に注射しないで、医療機関に連絡してください。

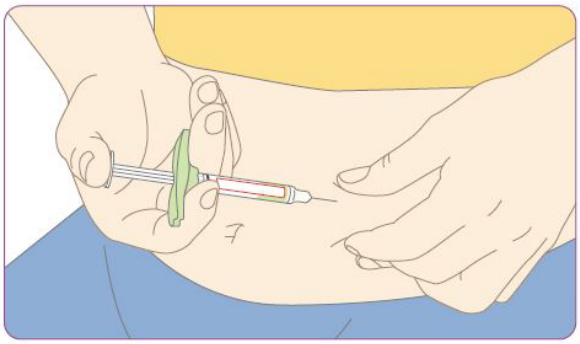


3 **薬液が空になったことを確認して、刺したときと同じ角度で注射針をすばやく皮膚から抜きます。**
その後、注射部位を新しいアルコール綿で10秒間ほど押さえます。
アルコール綿をはずして、注射部位から血が出ていないことを確認し、注射は終了です。
腫れがひかない、出血が止まらないなどの異常がみられたら、医療機関に連絡してください。

⚠ ●注射した部位をもむと腫れることがあるので、もまないでください。

〔注射のしかた（シリンジ）：腹部〕

● 前から見た腹部への注射のしかた

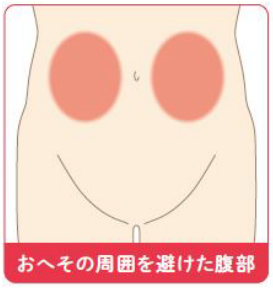


消毒した腹部の皮膚をしっかり持ち上げて、皮膚に対して注射針を斜め30度から60度の角度で刺します。このとき、針が全部見えなくなり、根元まで入っていることを確認してください。
そのままシリンジをしっかり持ち、同じ角度を保ちながら、内筒を最後までゆっくりと押し切ります。

⚠ ●内筒が硬くて押せないなど、抵抗を感じる場合は、無理に注射しないで、医療機関に連絡してください。

注射すべき部位

●前回と同じ場所には注射しないでください。
●前回の注射部位から3cm以上離れたところに注射してください。

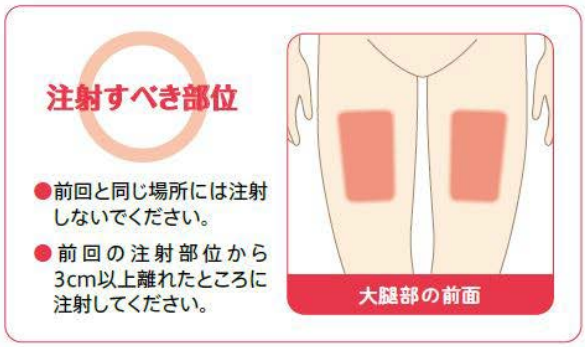


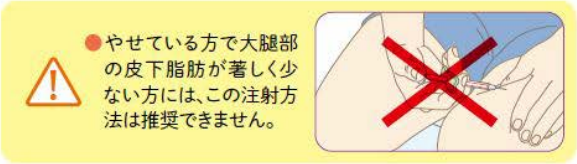
避けるべき部位

●皮膚が赤い、傷がある、硬くなっている部位には注射しないでください。

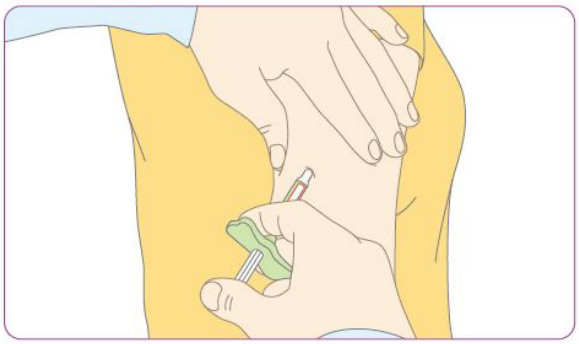
〔注射のしかた（シリンジ）：大腿部〕
大腿部に注射する場合は、シリンジを押し付けず、もう片方の手で皮膚をしっかり持ち上げて注射してください。

消毒した大腿部の皮膚をしっかり持ち上げます。皮膚に対して注射針を斜め30度から60度の角度で刺します。このとき、針が全部見えなくなり、根元まで入っていることを確認してください。
そのままシリンジをしっかり持ち、同じ角度を保ちながら、内筒を最後までゆっくりと押し切ります。
※注射方法は、必ず主治医の指示に従ってください。

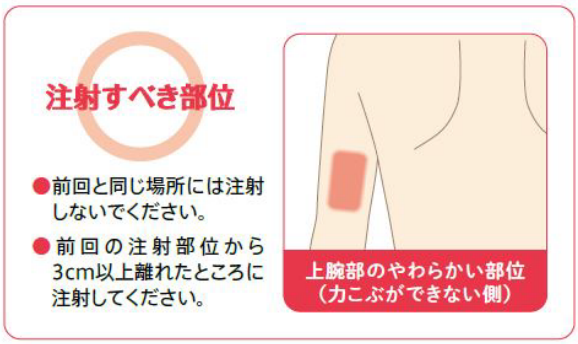


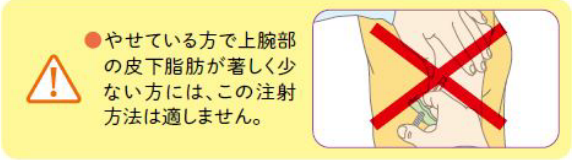


〔注射のしかた（シリンジ）：上腕部〕
上腕部への注射は、力こぶができない側に行うため、自己注射には適していません。
医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いしてください。



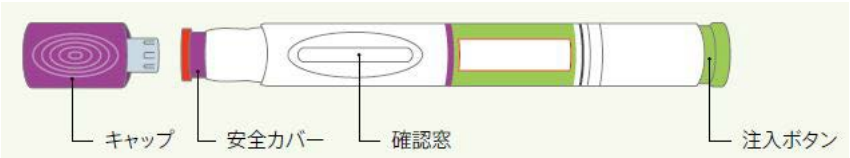
ご家族の方が、消毒した上腕部（力こぶができない側のやわらかい部位）の皮膚をしっかり持ち上げます。皮膚に対して注射針を斜め30度から60度の角度で刺します。このとき、針が全部見えなくなり、根元まで入っていることを確認してください。
そのままシリンジをしっかり持ち、同じ角度を保ちながら、内筒を最後までゆっくりと押し切ります。
※注射方法は、必ず主治医の指示に従ってください。





アクテムラ皮下注１６２ｍｇオートインジェクター

〔オートインジェクター各部〕



〔注射の準備〕

１．明るい場所で安定したテーブルを使い、テーブルの表面を清潔にします。

２．オートインジェクターの入った箱を冷蔵庫から取り出し、箱からオートインジェクターを出して、３０分かけて室温に戻します。
室温に戻している間は、オートインジェクターが入っている袋を開けないでください。

３．両手を石鹸で十分に洗い、清潔なタオルで拭きます。

４．オートインジェクターを室温に戻したら、袋からオートインジェクター本体を取り出します。
テーブルに準備マットを敷き、イラストの上に自己注射に使用する器具一式を並べます。
オートインジェクター、アルコール綿、そして廃棄ケースが揃っているかを確認します。

〔注射前のオートインジェクターと薬液の確認〕

注射の前にオートインジェクターと薬液について異常がないかを確認します。

・オートインジェクターが破損していないか
・オートインジェクターのラベルに記載されている使用期限が切れていないか
・薬液の中に塊があったり、薬液が濁っていたり変色していないか

これらに気づいたら、使用せずに医療機関に連絡してください。

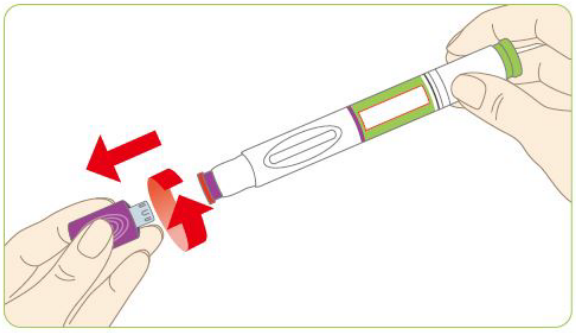
〔注射する部位の確認と消毒〕

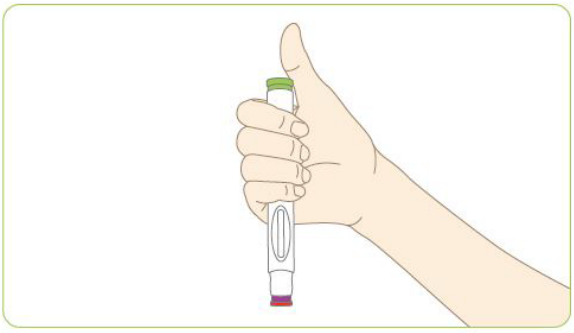
注射は、「腹部」「大腿部（太もも）」「上腕部（二の腕）」のいずれかにすることが可能です。

どこに注射するかは主治医または看護師の指示に従います。

注射する部位とその周辺を、アルコール綿で十分に消毒します。消毒したところは、注射するまで手を触れないでください。

〔基本的な注射のしかた（オートインジェクター）〕





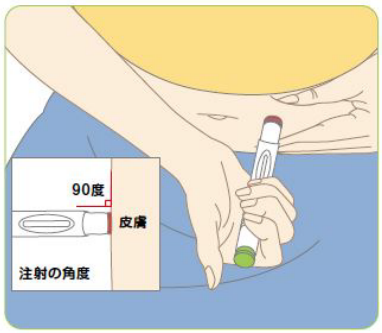
1 **オートインジェクターのキャップをはずします。**
オートインジェクター本体をしっかり持って、キャップの滑り止め部分に指をあて、軽くひねりながら横に引っ張るとスムーズにキャップをはずせます。

2 **オートインジェクターを正しく持ちます。**
緑色の注入ボタンが上になるように、正しく握っているかを確認します。

⚠ ●キャップをはずしたら、すぐに注射してください。
キャップをはずしたまま放置すると薬液が固まるおそれがあります。

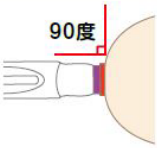
⚠ ●オートインジェクターを逆さまに持たないように注意してください。
指に針が刺さるおそれがあります。

● 注射のようす

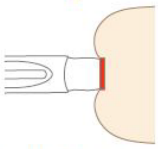


皮膚を持ち上げて
オートインジェクターを押しあてる。

● 注射の角度とロックの解除
（横から見た図）



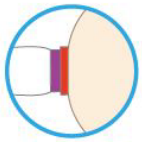
手でつまんで持ち上げた皮膚に対し、90度の角度で押しあてる



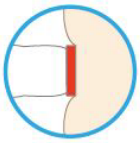
紫色の部分が完全に見えなくなるまで押しあてる

● ロックの解除のめやす

安全カバーの紫色の部分が完全に見えなくなるまで押しあてないと、注入ボタンのロックが解除できない仕組みになっています。

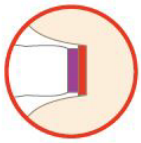


良い例



先端部が皮膚にしっかり押しあてられており、ロックが解除された状態

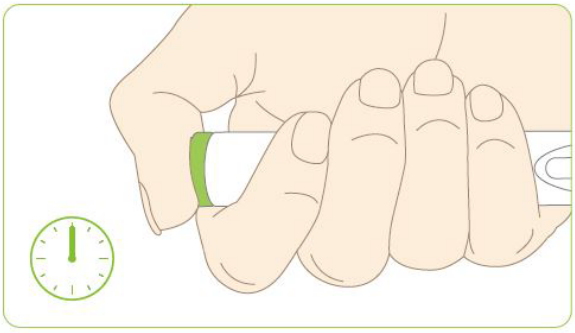
悪い例



先端部が皮膚に十分に押しあてられておらず、ロックが解除されていない状態

3 **消毒した注射部位の皮膚をしっかり持ち上げて、皮膚に対して90度の角度で、オートインジェクターの安全カバーを注射部位に押しあてます。**
安全カバーの紫色の部分が完全に見えなくなるまで押しあてると、ロックが解除され、注入ボタンを押すことができます。

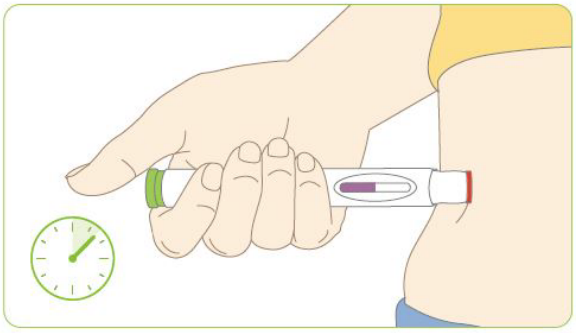
⚠ ●皮膚に押しあてるときは、注入ボタンに指をかけないようにしてください。



4 注入ボタンを押すと、「カチッ」(1回目)と音がして、薬液の注入が始まります。

注入ボタンを押した後、もしくは、すぐに指を離すことが難しい場合は注入が完了したら、必ず注入ボタンから指を離すようにしてください。注入ボタンから指を離すことで安全カバーのロックがかかります。

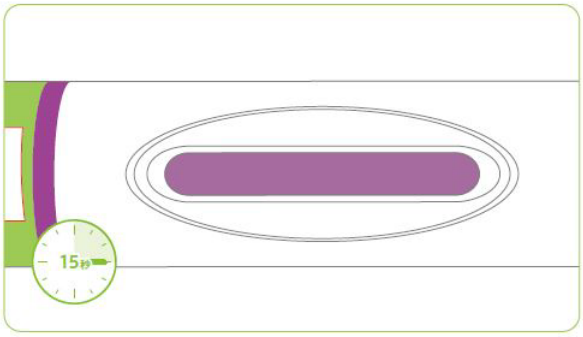
●すぐに指を離すことが難しい場合は、注入が完了したら必ず注入ボタンから指を離すようにしてください。



5 薬液の注入には15秒間かかります。

- 注入が終わるまでオートインジェクターをしっかりと皮膚に押しあてた状態を保ち、先端が皮膚から離れないようにしてください。
- タイマーなどを使用して、しっかり15秒間計ってください。
- 薬液の注入中に「カチッ」(2回目)と音がすることがありますが、安全カバーにロックがかかる音であり、注入が終了したわけではありません。

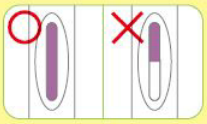
●必ず15秒間は、オートインジェクターをしっかりと皮膚に押しあて続けてください。
●途中で先端を皮膚から離すと、薬液が漏れてしまいます。

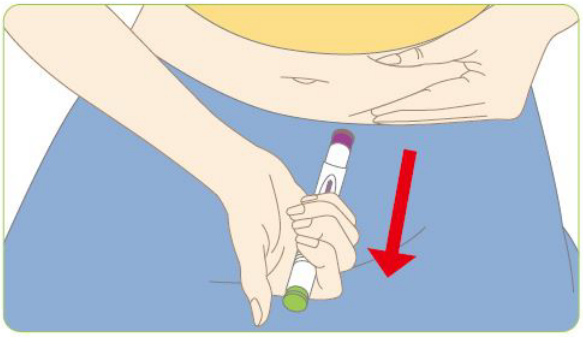


6 注入が終わると確認窓の中の確認バーが下がりきり、確認窓が完全に紫色になります。

確認窓が完全に紫色になったことを確認してください。

●確認窓全体が紫色になっていない場合は、医療機関に連絡してください。





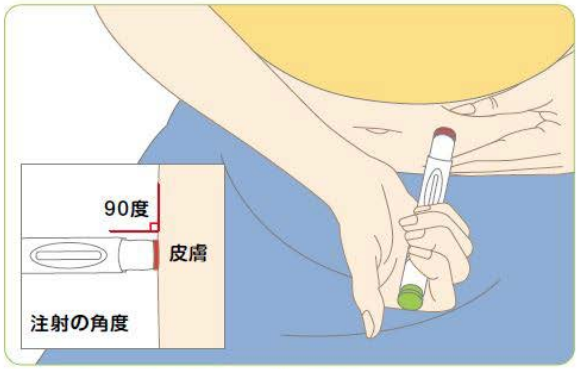
7 注入が終わったら、オートインジェクターを注射部位からまっすぐに離し、注射針を抜きます。

その後、注射部位を新しいアルコール綿で10秒間ほど押さえます。
アルコール綿をはずして、注射部位から血が出ていないことを確認し、注射は終了です。
腫れがひかない、出血が止まらないなどの異常がみられたら、医療機関に連絡してください。

●注射した部位をもむと腫れることがあるので、もまないでください。

〔注射のしかた（オートインジェクター）：腹部〕

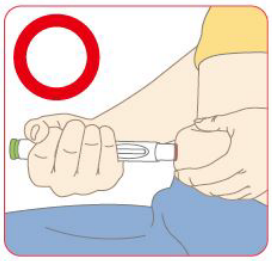
● 前から見た腹部への注射のしかた



消毒した腹部の皮膚をしっかり持ち上げて、皮膚に対して90度の角度で、オートインジェクターの安全カバーを注射部位に押しあてます。

● 横から見た腹部への注射のしかた

●つまんだ皮膚に対して、90度の角度で押しあてます。

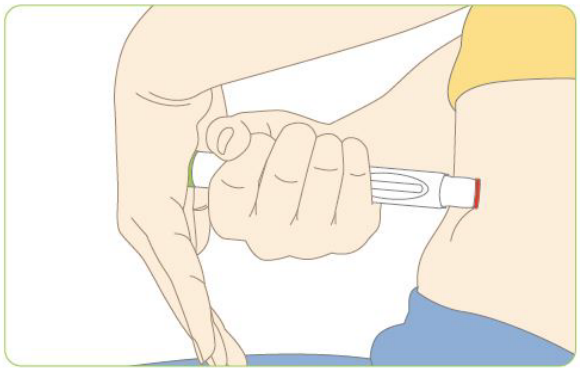


●つまんだ皮膚に対して、真上からオートインジェクターを押しあてないでください。

●適切な部位に薬液が入らないおそれがあります。

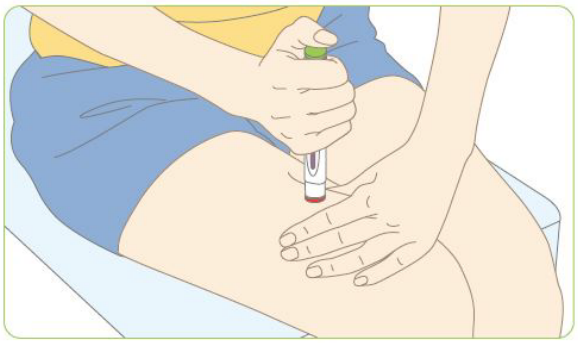
●また、皮膚を貫通して、指などへの針刺しの原因となります。

● 片手で注射することが難しい場合



オートインジェクターを握っている手と反対の手のひらで注入ボタンを押すこともできます。

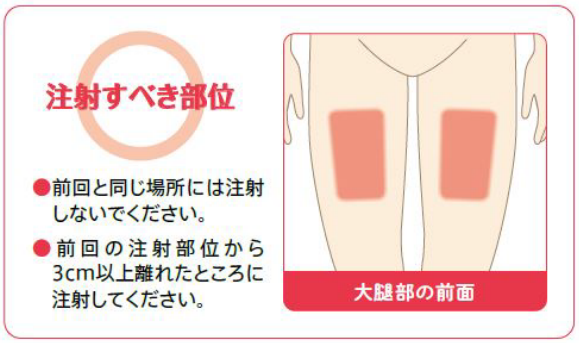
〔注射のしかた（オートインジェクター）：大腿部〕
大腿部に注射する場合は、オートインジェクターを押し付けず、オートインジェクターを握っている手と反対の手で皮膚をしっかり持ち上げて注射してください。



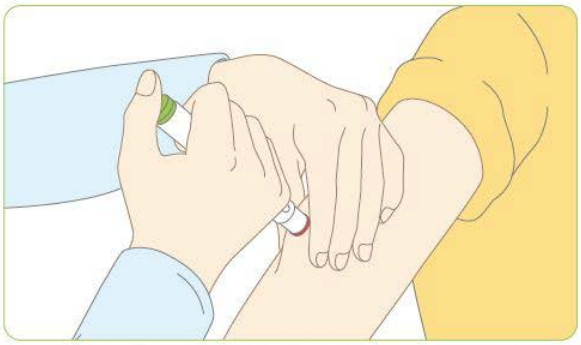
消毒した大腿部の皮膚をしっかり持ち上げます。皮膚に対して90度の角度で、オートインジェクターの安全カバーを注射部位に押しあて、注入ボタンを押してください。
※注射方法は、必ず主治医の指示に従ってください。

● 片手で注射することが難しい場合

●オートインジェクターを握っている手と反対の手のひらで注入ボタンを押すこともできます。
●やせている方で大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方には、この注射方法は推奨できません。



〔注射のしかた（オートインジェクター）：上腕部〕
上腕部への注射は、力こぶができない側に行うため、自己注射には適していません。
医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いしてください。



ご家族の方が、消毒した上腕部（力こぶができない側のやわらかい部位）の皮膚をしっかり持ち上げます。皮膚に対して90度の角度で、オートインジェクターの安全カバーを注射部位に押しあて、注入ボタンを押してください。
※注射方法は、必ず主治医の指示に従ってください。

●やせている方で上腕部の皮下脂肪が著しく少ない方には、この注射方法は適しません。